

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 190 号 (2026 年 2 月号)

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



新しい会堂ができてから、声をかけていただく機会が増えました。皆さんも完成を心待ちにしてくださっていたことに感激し、嬉しかったです。これからも町の教会として、共に歩みを進めていきたいと願っています。いつでも、お気軽にお越しください！



先日、タイの少数民族の教会で仕えている宣教師が訪問くださいました。現地での彼の写真を見ましたが、全くの別人でビックリ。3 年半、ほとんど日本人と会わず、少数民族の中にどっぷり浸かっていた彼は、顔つきまで現地の人ようになり、日本に帰ってきて数ヶ月で、本来の顔つきに戻ったとのこと。それを聞きながら、私は横須賀のシテーボーイ顔(?)を引きずらず、高松の顔になっているだろうかと考えさせられました。来月で丸 13 年、もう高松の顔になっていますよね。

今月も神さまからの恵みが、お一人お一人の上に豊かに注がれますように。 (2026.02.01)



踏ん張る人間

今、長男が思春期・真っ只中。すぐにイライラして、暴言を吐いています。私も中高生のときは、ずっとイライラして、親に暴言を吐いていたので、彼の気持ちがよく分かるのです。だからと言って、いつも彼の反抗を受け止められるわけではありません。時に真正面からぶつかり、暴言で応戦してしまうのです。そうすると、泥沼。妻や他の子どもたちにも飛び火して、カオス。長女は「世の中もヤバいけど、うちの中もヤバい。みんな、どうした?」と。

そんな状況の中で、ハッと我に返り「言い過ぎた～」と反省し、長男に歩み寄る日々。長男もまた、少し経ってから私の顔色をうかがい、「ごめんなさい」と謝ってきます。私が中高生のころ、いくら親に反抗しても謝ったことがなかったので、偉いな～と感心しながら、質問します。「次、同じことをしたら、どうする?」「一か月、ゲームをしない!」「お、そっか～」そして次の日… 笑



私たちは失敗を繰り返します。失敗のない人生などあり得ないからです。一方で、ただ失敗の山を築くのではなく、失敗を未然に防ぐには、どうすれば良いかを考えながら歩むことも大切です。この間、「そこに愛はあるんか」が決め台詞の CM の最新版を見て、思わず笑ってしまいました。

既婚男性が会社帰り、一緒にいた女性に誘われるのです。彼の心がなびいた瞬間、突然、工事現場の作業員に扮した女将さん(大地真央さん)が、彼に語りかけます。

「この世には二通りの人間がおる」
「女将さん」
「誘惑に負ける人間と踏ん張る人間。
あんたはどっちや?」
「踏ん張る人間です」

女将さんのおかげで、彼は失敗することなく、家庭崩壊の危機から守られたのです。





私たちの周りにも女将さんのような存在がいてくれたら、失敗は**確実に減る**でしょう。「この世には二通りの人間がおる。嘘をつく人間と嘘をつかずに踏ん張る人間。**あんたはどっちや?**」「この世には二通りの人間がおる。自分さえ良ければと思う人間と自分を犠牲にして人のために踏ん張る人間。**あんたはどっちや?**」

このような問いを投げかけ、生き方を正してくれたり、**ブレーキ**をかけてくれる方が周りにおられるでしょうか。それは家族だったり、友人だったり、先生だったり。私にとっては**聖書**です。聖書を読むと、自分の生き方が問われます。「**人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい**」ということばを読んで、まさに自分のことだと思ったのです。また人を憎み、絶対に赦すものかと頑なであった時に「**互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい**」ということばを読んで「赦そう」「赦したい」という思いが与えられました。これこそ【**踏ん張る**】ということでしょう。



けれど、いつも踏ん張れるわけではありません。時に踏ん張りが効かず、失敗してしまうこともあるのです。【**分かっちゃいるけど、やめられない**】ことだってあります。私自身、このことで日々悩んでいるのです。また自我が強く、わがまま。それゆえに数え切れず家族を、周りの人たちを傷つけ、その度に「**なんてダメ人間なんだ**」と自己嫌悪に陥ってきたのです。

そんな私の慰めは、聖書に登場する人たちもまた自我が強く、たくさんの失敗をするけれど、神さまは彼らを見捨てず、赦し、愛し、**共にいてくださる**ということ。

イスラエル人の父祖**アブラハム**もそうです。彼は神さまに選ばれ、神さまに命じられた通り、自分の住んでいた土地から 700 km離れたカナンに移り住みます。そんな信仰深いアブラハムですが、自分を守るために妻サラを妹だと**嘘をついたり**、神さまのお考えとは違うことを何度もするのです。そんな彼の失敗を神さまはそのままにされません。彼や彼の家族の叫び・祈りを聞かれ、彼らを助け、赦し、**失敗さえも益**と変えてくださるのです。聖書に次のようなことばが記されています。

神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

私たちが道を踏み外しても、大失敗しても、神さまは私たちに正しい道に導き、失敗を益としてくださるのです。単なる失敗、間違えでは終わりません。私の人生を振り返っても、このことは**真実だ**と思うのです。

しかし、神さまが何でも益としてくださるから、好き勝手して良いわけではありません。大切なのは、神さまの前に自分の非を**素直に認め**、【悔い改める】こと。【悔い改める】と【後悔】は全く違います。【後悔】は「自分をあわれに思う」こと。「自分がこんなことをしてしまうのは、育った環境が悪い」と自分の非を認めず、責任転嫁する。

一方、【**悔い改め**】は自分ではなく、神さまに向きを変えること。神さまのあわれみにする。このとき私たちは徐々に自分の力ではなく、神さまのあわれみによって「**踏ん張る人間**」になれるでしょう。



- **礼拝** 毎週日曜日 10:30~12:00
- **イズミン・キッズ** 毎週日曜日 9:30~10:20
- **おやこ de えほん** 毎週水曜日 10:30~12:00



* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。